

成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成25年8月成田市教育委員会会議：定例会

期日 平成25年8月22日(木) 開会：午後2時00分 閉会：午後4時15分
会場 成田市役所5階503会議室

出席委員

| | | | |
|-----|-------|----------|-------|
| 委員長 | 秋山皓一 | 委員長職務代理者 | 山口恵子 |
| 委員 | 小川新太郎 | 委員 | 高木久美子 |
| 教育長 | 関川義雄 | | |

出席職員

| | | | |
|---------------|----------|------------|------|
| 教育長 | 関川義雄(再掲) | | |
| 教育総務部長 | 深山芳文 | 生涯学習部長 | 諏訪峰雄 |
| 学校施設課長 | 藤崎宏行 | 学務課長 | 柳鶴暁 |
| 教育指導課長 | 山下隆文 | 学校給食センター所長 | 藤崎吉宣 |
| 生涯学習課長 | 秋山雅和 | 公民館長 | 木川義夫 |
| 図書館長 | 大木孝男 | 生涯学習課課長補佐 | 木内悦夫 |
| 教育総務課課長補佐(書記) | 宮崎由紀男 | | |

【会議概要】

1. 委員長開会宣言
2. 教育長報告

主催事業等

○7月26日～27日 第23回オールナイトハイクについて

市内の中学生を対象とした、青少年相談員連絡協議会主催の今年度のオールナイトハイクは中央公民館を起点として、成田の中心街の外側を回るおよそ30kmのコースで実施された。参加者は22チーム、212名。同行者は、前半77名、後半69名の方々に協力いただいた。コース途中の休憩所は、八生公民館、印東体育館、公津小、公津の杜小、市役所、成田小の6地点に設けられていた。26日深夜から27日早朝にかけて仲間と共に歩き通したことで、互いの連帯感が深まり、達成感を味わうなど、普段の学校生活ではなかなか味わえない貴重な体験をすることができたものと思う。既に今年で23回目と言う実績を積んでいるが、この事業を成功させるためには、多くの人の協力が欠かせない。青少年相談員の皆さんの思いと努力に感謝している。

○7月31日 成田市校長会予算要望について

毎年校長会から出される要望である。市校長会長の成田中鈴木校長はじめ、校長会役員から、要望書を受け取った。主な内容としては、教職員の人事配置に関する要望。学校配当予算に関する要望、施設設備に関する要望、親子方式の給食実施に関わる要望、学校安全に関する要望等である。いずれも現場要望としてもっともな内容であり、出来る限り要望を実現させてやりたいと考えているが、次年度予算にどれだけ反映できるかはなかなか厳しいものと思われる。努力しいていきたい。

○8月9日 成田市青少年問題協議会について

条例に基づき、設置されている協議会である。しかし、条例にはこの会の目的が明示されておらず、所掌事務として、一つは、青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき必要な事項を調査、審議すること。もう一つは、青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の適切な実施を期するために必要な関係行政機関相互の連絡調整を図ることとある。また、会の会長は市長と定められ、協議会委員には青少年問題に関わる関係機関の長もしくは所属する会から推薦された者が充てられている。今回の実施内容としては、青少年問題について協議するというより、青少年育成に関する事業並びに課題等の報告をし、出席委員から意見をいただくというような会になった。しかし、本筋から言えば、この会の趣旨に沿った内容で実施し、もっと有意義なものしなければならないのではないかと。事務局を統括する者として大いに反省し、次回からはより有効な会になるよう努めていきたい。

○8月20日 平成25年度成田市学区審議会について

今年度第1回目の審議会である。長年、この審議会の会長を務められてきた小川委員が委員を退くことになったため、今回改めて新委員の委嘱、会長の選出を行った。今回初めて委員になられたのは、前橋賀台小学校長の寺内章喜氏。また、会長には委員の互選で、新委員の寺内氏が選出された。なお、職務代理者には引き続き田丸喜美子氏が会長から指名された。

今回の審議内容は、学校統合に関わる学区の変更が2件、兄弟姉妹に関わって指定学校を変更する場合の事例について、指定学校変更理由の「より近くの学校」という文言の解釈の問題についてなど、4点について審議した。この内、兄弟姉妹に関わって指定学校を変更する問題については、委員から事務局提案に対する反対意見があり、再度提案し直すこととなった。やはり、より多くの方の意見を伺うと、様々な事例があることがわかり、良い審議ができたと思った。

その他

○7月27日 第32回千葉県スポーツ少年団サッカー交流大会について

県内スポーツ少年団サッカーチーム32チームが参加して、中台運動公園陸上競技場と球技場を使い、交流大会が実施された。トーナメント形式で2日間にわたって開催された。成田市からもFCボレイロ成田と、成田SSSの2チームが参加し、それぞれ熱戦を繰り

広げていた。最初の数試合を見てきただけだが、サッカーの技術は、高いレベルにあり、こうした大会を通じて確実に向上してきていると実感した。

○7月29日 全国高等学校体育連盟少林寺拳法専門部視察について

来年成田市で開催されるインターハイで、初めて少林寺拳法が加わることになっているがその大会会場である中台体育館を大会実行責任者が視察に訪れた。中台体育館は空調設備が備わっていないなど、課題もあるが、当日は臨時的に空調機を入れるなどして対応することになっている。また、練習会場となる成田国際高校も併せて視察していただいたが、会場が駅から近いなど利点も多く、使い勝手においてはほぼ満足していただけたのではないかと思われる。なお、この会場は日程が重ならないようにして、インターハイ柔道の会場にもなる。いずれにしても日本の高校生のトップレベルの選手が競い合う姿を間近に見られるのは嬉しいことであり、大会を成功させたい。

○7月30日 郷陽会展について

7月30日から8月4日まで佐倉市立美術館で開催された展覧会を見学してきた。今回が83回目となる伝統ある展覧会である。54名の会員の絵画が展示されていたが、絵画にあまり見識がない私のような者でも分かるくらい繊細な表現、鮮やかな色あい、あるいは、よく意味がわからないようなものなど、3階の展示室いっぱいには様々な絵画が展示されていた。成田市内にも「もりんぴあ」など、展示ホールとして使用できる施設ができてきているので、こうした市内の施設も利用していただけるようになると良いと思った。今回のような大がかりの展示には、「もりんぴあ」では少し狭いのかもしれないという印象を持った。芸術・文化の面で、まだまだ佐倉市に後れを取っているのではないかと思った。

○8月2日 印旛地区教育研究集会全体会及び教育講演会について

時間の関係で全体会にだけ出席した。全体会の後、諏訪中央病院名誉院長の鎌田實氏の講演があるからか、文化会館大ホールが満席で、立ち見の方も何人かいらっしやるほどの大盛況であった。夏休み中の教職員の研修の一環でもあるが、こうした意欲を普段の授業など子どもと接する場面で大いに発揮していただけたらありがたいと思った。

○8月3日 印旛郡市社会教育振興大会について

これは全委員が参加されたので多くはご報告しないでもよいと思うが、明石要一先生のお話は何時聞いても面白いと感じた。納得する場面が何度もあった。印象的なお話として、「子どもを育てる際、食事前、トイレ前、寝る前は叱ってはいけない」という言葉。こうした時間は、「ホットステーション」だという言葉に妙に納得したのは、自分自身の子育ての反省、我が子の子育てを見て思っていたこと、そのものズバリだったからである。話の中には「そうかなー」と言う部分もあったが、あっという間の90分で良い時間を過ごさせていただくことに感謝したい。

○8月5日 加良部小学校スナックゴルフチーム全国大会出場激励会(第11回スナックゴルフ対抗戦JGTOカップ全国大会)について

このスナックゴルフは小学校4年生まで参加できる大会で、加良部小学校が県大会で優勝し、全国大会に出場することになった。選手は6人で表敬訪問の中で最も低年齢の選手達となった。どんな競技でもいい。子どもの頃により多くの仲間と交流できることは良いことだ。また、遠い地域に出かけ、そこで新しい仲間と触れ合うこともまた、良い経験になる。是非何事にも頑張れる子どもになってほしい。

○8月5日 成田祇園国際反省会について

7月に実施した成田祇園国際の反省会を、関係者全員が集まって実施した。反省の中では、特に、駅前のタクシーやバス会社の方から、駅前のロータリーから市役所入口にかけて、祇園の山車が通行を妨げ、長い時間にわたって通行できなくなるなど、利用者に迷惑をかけたので、今後はこうしたことがないようにしてほしいとの要望が出た。歴史のあるお祭りであり、市民の皆さんが協力して成功させようと努力しているので、関係機関にも是非協力していただきたいと思った。

○8月5日 ユネスコ婦人部主催 国際交流「台湾の人形劇団との交流会」について

ユネスコ婦人部長、橋本さんのお宅に台湾の人形劇団を招き、国際交流会を行った。この人形劇団は台湾の子ども達が演じるもので、日本の各地を回って公演している。一番小さな子は小学校2年生だということだった。通訳を交えてだったが、人形の動かし方など、子どもから教わることができた。慣れない異国の地で、親元を離れてきているにも拘らず、はしゃぎまわる子ども達を見ていると、子どもは世界共通で、どの子にも良い体験と深い愛情を、と思わざるを得ない。とても楽しい会であった。

○8月13日 プロ野球イースタンリーグ公式戦 第6回成田スカイシリーズ(千葉ロッテマリーンズ対読売ジャイアンツ戦)について

大栄のナスパスタジアムでイースタンリーグ公式戦が開催された。プロ野球二軍の選手とは言え、やはりプロ。迫力が違う。また、将来一軍で活躍が期待される選手、つい最近まで一軍で活躍していた選手など、名前の知れた選手も多く出場しており、楽しく観戦させていただいた。ただ、このスタジアム、まだ新しいのに、ゲーム開始当初、電光掲示板が故障で使えないなど、ハプニングがあった。事前に点検し準備しておくのが当たり前で、大勢のファンや選手に申し訳なく感じた。また、ストライク、ボールの表示が最新の表示ではなく、旧式のままであるため、これは変えていかないといけないのではないかという声も多くあった。

○8月20日～28日 2013成田少年の翼出発式について

ニュージーランドフォクストンに向けて出発する「少年の翼」の出発式が成田空港第一ターミナルビルで行われ、出席した。帰国は28日の予定。団員は当初の結団式の時とは全く違う顔になっていて驚いた。引き締まった表情。緊張もあると思うが、何度か研修を重ねていくうちに成長していったと思われる。小学校5年生から中学校2年生までの子どもたちで、小さいころからこうした体験を積むことができるというのは大変素晴らしいこ

とで、是非この機会に素晴らしい体験をしてきてほしいと思った。帰国が楽しみである。

○8月21日 中学生議会について

今年の中学生議会では、教育委員会に対する質問は少なく、久住中から指定学校変更をして他の学校に進学してしまうことの問題について、また、公津の杜中から国際理解教育について、の二つの質問があったのみ。今回から第二次質問は部長答弁となり、また、質問が終わったら質問者が自分の言葉で意見や感想を言う形式となり、より深まりのある中学生議会になってきたのではないかという印象を持った。それにしても中学生の態度は立派だった。

○8月22日 「IBAF（国際野球連盟）12歳以下世界選手権大会」結果報告会について

先月報告させていただいた、世界選手権大会に出場した選手が帰国し、その結果を改めて報告してくれた。結果は予選リーグ6戦全勝で1位通過。決勝トーナメントでは、1回戦を勝ち、準決勝でアメリカ合衆国に敗れたものの、3位決定戦でベネズエラに快勝し、見事3位、銅メダルを獲得した。中学生で、日の丸の付いたJAPANのユニホームを着てプレーできたことは、大変素晴らしいことである。今後は、野球だけでなく他の面でも頑張ってもらっていて、より大きな人間として活躍してもらいたいと思った。

《教育長報告に対する主な質疑等》

委員：青少年問題協議会が開催されたが、現在の成田市における青少年の問題はどのようなものか。

関川教育長：現在、抱えているものとしては、家庭における様々な問題が挙げられる。例えば、親が子どもに食事を与えない、風呂にも入れない、親から虐待を受けている、逆に子が親に対して暴力を振るう、など家庭内の様々な問題に起因して子どもが非常に苦しんでいるといった事例がこの夏休み、たくさんあった。夏休み中であるので、学校における問題よりも家庭での問題が目立って起きており、すぐには解決できない問題も多く、教育委員会事務局の担当は、それらの問題に朝から晩まで対応をしている状況である。

山下教育指導課長：一番大きな問題としては、児童虐待的なものであり、その一例として、母子家庭、父子家庭であるとか、外国人子女などの家庭において、家庭生活自体が成り立っていない状況の中で、子どもが朝ごはんを食べさせてもらっていない、妹の面倒を看させるために学校を休ませる、などの様々な事例が発生している。児童相談所等と連携を図りながら取り組んでいるところである。全体的に生徒指導上の大きな問題

はないが、一部の中学校では、数名ではあるが、深夜徘徊や喫煙、飲酒等の事例がある。また、指導上の問題であるが、発達障害等のお子さんで、上手く指示が伝わらず、先生に反発したり、友達との人間関係を上手く構築できないといった事例が報告されている。

委員：虐待によって子供が命を落とすといった事例が新聞等で報道されている。虐待問題については、子どもの命に係わることであるので、積極的に係わっていただきたい。後になって、親から拒否されたから何も出来なかったというのは言い訳で終わってしまう。出来ることは積極的にやり、子どもを守るという姿勢を教育委員会として示してほしい。

委員：中学生議会で、指定学校変更や国際理解教育について質問があったとのことであるが、詳しく教えていただきたい。

関川教育長：まず、久住中学校の指定学校変更についての質問は、久住中に入学すべき生徒が久住中に入学せずに成田中や西中に行くことに対して、指定した学校に進学できるようにしてほしいという内容であった。久住中は現在、単学級で出来る部活動に限られてしまうことから、自分がやりたい部活動に入るために他の学校に行ってしまう。子どもたちが他の学校に行ってしまうことで、久住がいつまでも発展しないのではないか。そうした思いから久住地区の子どもは、久住中に進学できるようにしてほしいとのお願いであった。私からは、誰もが夢や熱意を持って、挑戦したいという一人一人の気持ちも大事にしなければならないこと。どうしても部活動により学校を変更したい人は、幾つもの手続きをし、しかも友達と離れて新たな学校に行くというリスクを負うこと。そうしたことを踏まえ、決断して行くことになるので、教育委員会としても応援していきたいと話をした。ただ、教育委員会の基本的な姿勢としては、指定された学校に行くことが一番望ましいということは先に示してはいる。

次に、国際理解教育については、先般、台湾の生徒が公津の杜中を訪問したが、その公津の杜中の生徒から、そうした機会を増やしてほしいとの質問であった。実際には生徒の交流は難しい面も多く、海外から子どもたちが来る機会もそれ程多くはないが、そうした話があれば積極的に取り組みたいと思う。

委員：指定学校の変更について、数名の保護者から簡単に変更ができる旨の話がされた。実際には簡単なことではないということを周知することも必要である。

柳鶴学務課長：今回の学区審議会においても、指定校変更の要件について議論された。実際に

担当窓口で取り扱っている状況、その背景にある保護者、子どもたちの状況等についても確認しながら、要件に沿って対応しているところである。指定校変更の件数そのものは確かに年々、徐々にではあるが増加している。

委員：本日のふれあいコンサートはハワイアンの演奏で、昼休みの一服の清涼剤として、多少、涼しいさわやかな思いをさせていただいた。要望であるが、7月末に印旛郡市の中学生の美術展が佐倉中央公民館で開催され、参観したところ、成田の中学生の作品が他と比べると少し劣る印象を受けた。小中高を通して、子どもの才能を見出して、伸ばしていくことも学校のあり方だと思うので、中学校の美術についても今後、期待をしたいと思います。また、ナスパスタジアムで行われたイースタンリーグの試合において、課題等が報告されたので、改善すべき点については対応をお願いします。

委員：私もプロ野球を観戦した。ファールボールがかなり球場の外に出ていたが、ファールボールが車に当たった事故はこれまでにあったのか。

大矢生涯スポーツ課長：ボールが当たったという報告はこれまではない。

3. 議 事

(1) 議 案

議案第1号 下総小学校・下総中学校の通称名について

柳鶴学務課長 議案資料に基づき説明

(要旨)

平成26年4月に開校する下総小学校と下総中学校は、成田市立下総小学校・成田市立下総中学校と正式な校名があるが、小中一貫教育を実施する二校の総称として、通称名を「下総みどり学園」に制定しようとするものである。

この通称名については、下総地区小中連携推進委員会が平成24年12月に、小中一貫教育を実践する学校として通称名を地域の皆様から募集し、審議を重ねていただいていた。また、この間教育委員の皆様からも協議会等においてご助言をいただいていたが、昨日、推進委員会から答申をいただいた。選定理由として、緑多い下総台地がイメージできること、学区には緑が豊富で、いつまでも緑豊かであってほしいこと、1年生から9年生までが親しみやすい名前であることが挙げられている。

小中一貫校における通称名は、児童生徒、保護者、学校職員、地域の方々など関係するすべての皆様が小学校と中学校に一体感を感じ、在籍する児童生徒が所属感や愛着が持てるように、また、地区にある唯一の学校として、地域コミュニティの中心を担うことを期待して制定する

ものである。すでに、県内でも2校あるが、全国各地で小中一貫教育を実践している学校では、正式名称より通称名の方が一般的に使われており、小中一貫校としての教育効果を蓄積していると伺っている。下総小学校と下総中学校においても、通称名を決定していただくよう提案をするものである。

《議案第1号に対する主な質疑》

委員：今回、通称名を募集する時に、「下総」を入れることを条件としたために、名前を付けるに際し、制約され、名前が付けにくかったという意見があったと聞いている。今後、大栄地区も予定されているので、そうした様々な決め事に関する課題や問題点等を引き継いでいただきたいと思う。この先、大栄地区の実行委員会が組織された時に、いろいろな面でアドバイスが出来るようにしていただきたい。

柳鶴学務課長：今後、大栄地区を進める場合においては、反省点を生かして進めてまいりたい。

委員：新しい学校を作る上では、地域の盛り上がりが大切なことだと思う。地域が、自分たちが小中一貫校を作り上げていくという心情が生まれるような、地域を盛り上げるという部分での手法・手段について何か考えはあるのか。

関川教育長：この学校の統合が決まった時から、そうした気持ちで取り組んできた。新しい学校、新しい形の学校を作る以上、何処にもない学校を作るつもりで取り組んできた。そのためには、地域の皆さんを巻き込んで、自分たちが学校を作るということを当初から話をして進めてきた。それが、小中連携推進委員会という組織であり、そこには地域の代表者6名の方々に入っただき、一緒に進めてきた。この「小中一貫教育」に対しては、地域の皆さんも知識を持っていないことから、理解していただくために時間をかけた。一般的には、あまり関心がないところであるが、学校の視察にも参加いただくなど、かなりの方に関心を持っていただいたと思う。委員がおっしゃったように、地域が率先して私たちの学校を作る、新しい伝統を作る、新しい誇りを育てていく、等の気持ち、気構えを持って学校を作っていく、そういう気持ちで取り組んできた。3年をかけて取り組んできたので、かなり出来ているとは思っている。いろいろと反省もあるので、大栄地区ではまた違った取り組みになると思う。

委員：初めてのことで、ノウハウがないということであるが、これから一番重要なことは人事だと思う。ノウハウがないなら、意欲のある教師を配置してあげないと上手くい

かないと思う。希望する教員が少ないという話もあったが、是非、意欲を持って取り組むことが出来る教師を配置してほしい。

関川教育長：教育委員会としては、下総地区の統合が決まった時から、小中一貫教育を視野に入れて、様々な小中一貫校を訪問し、勉強してきている。教育委員会の職員はノウハウを積んで、これまでリーダーシップをとって進めてきた。ただ、人事異動の中で、そうした人材も外に出ていき、大きく変わってきたという経緯もある。委員の言うように、職員を育て、配置する必要がある。

議 長：議案第1号 下総小学校・下総中学校の通称名について、を原案どおり可決する。

(成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第2号 成田市公民館運営審議会委員の委嘱について

《審議結果》

承 認

<非公開を解く>

(2) 報告事項

報告第1号 中学校における部活動中の財物事故に伴う損害賠償について

【柳鶴学務課長 資料に基づき報告】

(要旨)

事故の概要であるが、平成25年6月25日(火)午後4時頃、成田市立玉造中学校のグラウンドにおいて、同校の野球部の生徒が打撃練習を行っていた際、その生徒の打ったボールがグラウンド脇のフェンスを飛び越え、グラウンドに隣接する市道を走行中の成田市玉造在住の男性が運転する車両のボンネットに当たり、ボンネットの一部を損傷させたというものである。損害賠償額、124,740円、その内訳は修理代として、91,140円、代車代として33,600円であるが、平成25年8月12日に、市と当事者で示談が成立したので報告する。

示談の内容は、市は、相手方に対し、本件事故による損害賠償義務を認める。市は、相手方に対し、損害賠償額124,740円を支払う。相手方は、市に対し、本件事故に関して上記金額の支払以外は、いかなる請求もしない。というものである。

なお、支払いについては、市が設置する学校及び教育委員会に瑕疵があった場合に対応するために、全国市長会学校災害賠償補償保険に加入しているので、この保険を利用して対応することとしている。

《報告第1号に対する主な質疑》

委員：玉造中のグラウンドの防球ネットの高さはどれ位か。また、今回の事故を受け、今後の対策についてどのように考えているのか。

藤崎学校施設課長：ネットは5m位である。新設の公津の杜中は道路側に15mの防球ネットを整備した。今回の事故を受け、他の学校についても調査をしたところ、玉造中と同じ位の高さの学校が幾つかあった。ネットを高くすることも一つの方法ではあるが、15mの公津の杜中でもボールが飛び出る事例があるので、どこまで高くすればいいのか問題となる。指導者の方に練習の方法を考えていただき、練習のやり方を工夫することも考えられる。また、ボールが飛び出さないように、ネットで囲むような備品を整備することでも対応できると思う。必要に応じて防護フェンスを高くすることも考えられるが、すぐにフェンスを高くすることは考えていない。他の方法についても検討をしているところである。

委員：ネットの高さは5mでも15mでもボールが超えることがある。ただ、15mの方が外へ出る確率は相当低いと思う。各学校の状況をよく調査し、高さを決める等の検討は必要だと思う。

藤崎学校施設課長：予算の問題もあり、適切な対応方法について現在検討中である。

深山教育総務部長：いろいろな角度から対応策を検討し、防球ネットを高くすることも対応策の一つとして重要なものと思うので、検討していきたい。

4. 委員長閉会宣言